

一遍と大宰府

時宗の開祖として名高い一遍いつべん智真ちしんは、1239年、伊予国河野氏こうのに生まれました。河野氏は、伊予国北部の河野郷を本拠とし、水軍を擁して瀬戸内海で活躍した武士です。

1221年、承久の乱で乱を起こした後鳥羽上皇側についたため、河野氏一族は死刑・流刑となり、領地も没収されましたが、一遍の父通広みちひろは、乱後も領地を保有しています。これは、通広が一時期僧であったため合戦に参加せずにすんだのではないかと言われています。

10歳で母と死別した一遍はこの世の無常を思うようになり、ついに父の勧めで出家して、13歳の時には、やはり父の命令で筑前大宰府の僧聖達しょうたつのもとに弟子入りしました(平成21年3月1日号参照)。聖達は法然の高弟で西山派の祖である証空の弟子です。実は、一遍の父も証空の弟子(如仏)でした。つまり通広は自分の兄弟弟子に息子を託したということです。一遍は25歳の時、父の死去により帰郷し、還俗げんぞくして結婚し、子供も生まれました。父の死後は、跡を継いだ兄も亡くなり、河野氏内で家督争

太宰府人物志

資料室だより ㊦

いがおこったようです。一遍は再び出家を志し、大宰府の聖達のもとを訪れます。

その後、信濃善光寺や熊野神宮への参詣で阿弥陀如来の他力本願の深意を悟った一遍は、各地を遊行してまわります。38歳の時には、かつての師である証達のもとを訪れました。証達は風呂をたいて一遍を歓迎し、風呂に二人で入って、仏法の話をしたといえます。

このようにたびたび一遍は大宰府の地を訪れていたのですが、大宰府は後に時衆(中世では通常「時宗」ではなく「時衆」の字を用いる)の拠点となったようです。『時衆過去帳』には時衆の僧名が列記されていますが、「宰府」「宰府時衆」などの注記が散見されます。また、『時宗末寺帳』には「金光寺宰府」と見えますが、これは観世音寺の子院の一つ金光寺のこととされ、字「今光寺」から出土した寺院遺構からは、「阿弥陀仏」という時衆らしい僧名を記した宝篋印塔ほうくわういんとうが出土しています。